

# 第一回 公立豊岡病院組合改革プラン評価委員会会議録（要約版）

平成 21 年 11 月 30 日（月）14:00～16:00

職員互助会館 2 F 会議室

出席委員：8 名

谷田一久委員、中治隆宏委員、立花正敬委員、日下部昌男委員、岡林史郎委員、  
友田多佐子委員、上田利幸委員、尾花秀規委員（代理石田修委員）

欠席：1 名 小山克志委員

事務局：7 名

青木俊彦管理者、中島明彦理事、福井周治総務部次長、岩上定幸総務部次長、  
水谷正起会計管理者、加藤茂人事課長、宮田索経営管理課長、小谷則彰経営管理参事、  
岡本啓子経営管理課係長、小野俊雄経営管理課員

オブザーバー：谷直樹豊岡病院管理部長、山田弘出石医療センター事務長、岡田秀雄梁瀬  
医療センター事務長、片山修和田山医療センター事務長

[会議進行]

1 開会

2 あいさつ

3 報告事項

- ・公立豊岡病院組合改革プラン評価委員会設置要綱について（資料 1）

4 協議事項

①委員長、副委員長の選任について

委員長：谷田一久委員

副委員長：中治隆宏委員

②改革プランの概要について（資料 2）

③改革プランの進捗状況について（資料 3、資料 4）

5 その他

6 閉会

---

【議事録要旨】

**協議事項①委員長、副委員長選任後**

『改革プランの概要を踏まえ評価委員会をどのように進めていくべきか。』

委員 A 「初めての会議でよく判らないが、資料 4 にある各項目をいかにクリアしていくかが目標になると思う。豊岡市、朝来市においてもまだまだ努力する分野があるのではないかと。今後、協議を進めながら意見を述べていきたい。」

委員 B 「先日いただいた資料を読み驚いている。この会議に参加して初めて判ったが、地域住民としてこのようなプランがあり評価委員会が設置されたという事を、

地域住民は誰も知らないのではないか。難しい問題だが、今後協議して、具体的にしていけば理解が得られると思う。」

委員C「今の段階ではよくわからない。まず改革プランについて理解してから、協議に入っていきたい。」

委員D「設置要綱の内容から見ると、公表されることを意識して、市民の皆さんに判りやすいような結果を示していく必要がある。」

委員E「プランの目的は、豊岡病院組合がいかに赤字を脱出するかにある。それは最終的には数字にしか表れてこない。評価委員は評価委員会の中で色々と意見が述べられるようになることが必要である。」

(まとめ)

『今日一回でいきなり評価という話にはならない。今日のテーマは①改革プランの概要を理解する。②豊岡病院組合が実施している現在の取組について概要を理解する。③評価の進め方については、全委員の理解が進んだところで再度協議する。』

#### 協議事項②改革プラン概要について（資料2）

『改革プランの概要（資料2）の意見、質問』

委員E「行政関係なら、過疎対策で補助金があるが、過疎地域にある病院に対して過疎対策的な補助金はあるのか。」

事務局「過疎対策的な補助金はないが、出石医療センター、梁瀬医療センターには、不採算地区病院と言う事で、それに対しては特別交付税が市に対して交付される。病院組合に直接入ってくるものではない。」

委員E「構成市経由で入ってくるのか。」

事務局「構成市からの経費負担について条例で定めてあり、その財源の中に不採算地区病院にかかる特別交付税が構成市に入っている為、その財源の一部になっていると思われる。」

委員E「交付税は毎年一定額か。収支によって変わってくるか。」

事務局「年によって一定額が変わる。1床当たりいくらという事。」

委員C「果たすべき役割の中で、初期医療という言葉がある。別の分類で1次、2次、3次という言葉があるが、ここでの初期医療と言うのは2次という事か。」

事務局「ここでの初期医療とは1次の事。」

委員E「財務に関する数値目標というところで、職員給与費52%となっているがそれには、退職金とか積立金とかは含まれているのか。」

事務局「20年以上在職職員の退職金は含まれていない。」

#### 協議事項改革プランの進捗状況（資料3）

『改革プランの進捗状況（資料3）の意見、質問』

委員E「支出の部で総合的にみると、ちょうど50%の理想的な数字が出ているが、この数字は発生主義か。現金主義か。」

事務局「発生主義。」

委員E「収入の中にその他44%とあるが、その他とはどんな収入か。」

事務局「看護師等の実習を受入れた時の謝礼や、職員住宅の家賃収入などです。」

委員E「支出については理想的。全体的に見ても非常に計画どおり。ぜひ決算終了時もうこういう数字が出るよう期待する。」

委員E「補助金がないと聞いたが、その他会計に入っているのか。」

事務局「国からの補助金ではなく、構成市からの分賦金。」

委員A「収入の中の他会計負担金というのが構成市からの負担金なのか。それが、中間決算で一律50%でないのはなぜか。」

事務局「改革プラン作成時期が平成20年12月補正時の計画段階での数字の為一律ではない。」

委員F「21年度中間決算の達成状況が示されている。このまま3月末の21年度決算になると既に目標数値を達成していることになる。順調にいくとすでに経常収支比率は23年度計画ペース。職員給与費比率は25年度計画ペースとなり、早く達成してしまう事も考えられるが、逆に達成できない時の目標数値の見直しについてはどうなのか。」

委員長「今後、委員会として協議していく。」

(まとめ)

『事務局は事務局なりの自己評価を作成しているが、評価委員会としてはどう評価するかということが課題になる。例えば計画よりわずかに下回っている場合は、△で良いのか、○なのか、×なのかどうなのか、誤差の範囲なのか、これが決算確定後、評価委員会としてある程度具体的な評価をする必要になる。』

#### 協議事項③改革プランの進捗状況について（資料4）

委員長「改革プランの進捗状況（資料4）の説明の途中ですが、既に予定の時間が近づいてまいりました。このように、質疑を入れながら会議を進めると、時間がいくらあっても足りなくなります。今後、質問や判らないこと等を、電話、FAX、メール等で、事務局に問い合わせる。事務局は、それをQ&Aにまとめ、次回委員会を開催する前に、あるいは定期的にでも、委員に配布し共通理解をはかっていく。それであれば、時間を気にする必要もなくなる。委員の皆さんは評価委員会のこの時間だけが評価委員というのではなくて、3年間評価委員の皆さん方が豊岡病院組合に関心を持っていただくという、そのようなスタンスで進めて行ってはどうか。」

全委員「異議なし。」

(まとめ)

『今日は第 1 回目と言う事で、初顔合わせを行い、委員の皆さん方から貴重なご意見をお聞きした。評価委員の任期は3年だが、評価委員会の時だけの評価委員ではなく、常に評価委員という事で公立豊岡病院組合の運営にぜひ関心を持っていただきたい。』

(以上)